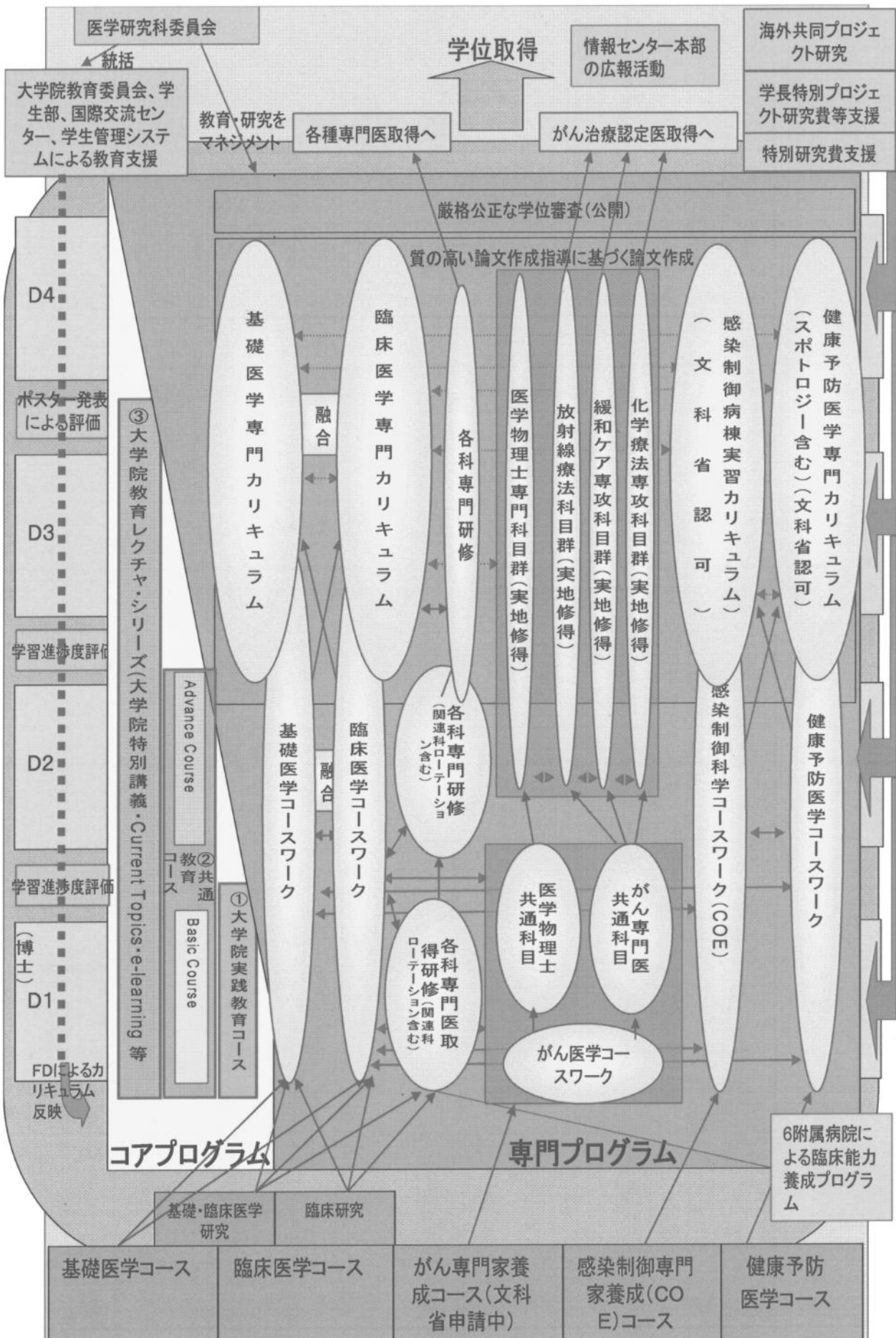


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	順天堂大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	研究能力と専門性を育む大学院教育の実践		
主たる研究科・専攻名	医学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者)木南 英紀		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本学大学院では、基礎医学者および臨床医学者として必要な知識、技術を習得しながら、経験を積み、段階的にスキルアップができるプログラムを用意した。大学院生の将来計画に対応した複合的な教育プログラムである。本申請は、平成19年度から一部実施されている (ア) コアプログラムと (イ) 専門プログラムの教育体制を更に体系化し、実質化する基盤整備計画である。</p> <p>(ア) コアプログラムは、<u>自立した医学研究者としての研究活動、研究指導を行うことができ、豊かな感性と学識を身につけるための体系的教育プログラムである</u>。コアプログラムは、①大学院実践教育コース (11のテーマから選択可能な基礎・臨床医学融合型のコースワーク、実践的な研究実行能力を育成) ②共通教育コースのBasic course (1年次の大学院初期教育) およびAdvance Course (2年次の研究プロジェクト遂行と学位論文作成のための基礎教育) ③大学院教育レクチャ・シリーズは大学院特別講義、Current Topics(学内で開催される多数のセミナー)およびE-learning等のコースワークで構成されている。</p> <p>(イ) 専門プログラムは、幅広い医学研究分野において知識・技能を習得し、専門性を高めながら、自ら研究プロジェクトを遂行し、独創性、自律性を育む教育プログラムである。専門プログラムでは、<u>基礎医学コース、臨床医学コース、健康予防医学コース、感染制御専門家養成コース(COE)、がん専門家養成コース(文科省申請中)を置く</u>。各コースはコースワークで構築される。感染制御専門家養成コース (COE) およびがん専門家養成コース (文科省申請中) は、基礎医学、臨床医学融合型の横断的・実践的教育コースであり、大学病院での実習が重視される。健康予防医学コースは、本年医学研究科に設置されるスポットロジー研究センターを中心に、医学研究科、スポーツ健康科学研究科一体となった専門化育成コースである。基礎医学コースでは、先進的な医学を追及し、国際的な若手研究者として成長するのに必要な研究能力、倫理観を身につけるコースワークからなる。臨床医学コースは、高度専門性をもとめられる医学・医療に必要な技能、態度を習得する一方、臨床に密着した研究の遂行能力を身につけるコースワークからなる。いずれのコースにおいても、コースワークに並行して主に指導教員の下で研究プロジェクトの遂行により、<u>高度に専門的な知識と技能</u>を学修する。</p> <p>これらの体系的な教育における学習評価としては、低学年では、学習の進捗度評価を大学院教育委員会が行い、研究の方向性や深度を主に評価し、3年次、ポスター発表による研究発表において、学位論文形成過程に関する評価を行う。そして学位申請において論文提出を受け、公開で審査を行う。これらの学習評価過程をもって、本プログラムを運用する。</p> <p>以上の体系的教育課程・プログラムの企画・運営は、コースワーク委員会において、授業の進捗状況を管理し、教育全般については<u>大学院教育委員会</u>、学生事項については<u>大学院学生部会</u>が管轄し、教育・研究指導や経済的状況への配慮を行う。これらを大学院医学研究科委員会が管轄する。</p> <p>なお、留学生については国際交流センターで環境支援を行う。大学院生自身が学修・研究の進捗状況を自身で把握するシステムとして、インターネットを利用した<u>学生管理システム</u>を設置し、上記の体系的教育プログラムの実践を支援する。プログラム修了後も、カリキュラムの見直しと評価を教育活動の質の向上に結びつけ、プログラムを継続する。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「生涯にわたって医学と向き合う姿勢をもった基礎医学者と臨床医学者を育成する」という人材養成目的が明確であり、それに沿ったコースが設置され、組織的、体系的に教育活動を展開するための基盤が整備されており、今後の展開が期待できる。

教育プログラムについては、これらの基盤をさらに体系化、実質化するため、コアプログラム、専門プログラムなど多様な取組が提案されている点は評価でき、今後の成果が期待されるが、研究者養成という観点からは、教育プログラムの内容について更なる工夫が望まれる。